

**小麦の葉耳間長による幼穂長の推定および出穂期の予測**  
(追補；「あおばの恋」)

古川農業試験場

**1 取り上げた理由**

小麦の子実の充実と子実粗タンパク質含有率向上のためには、減数分裂期と穂揃期の窒素追肥が必要である。減数分裂期の判断には幼穂長を測定する必要があることから、追肥時期の判定には労力を要している。また、穂揃期は出穂期の1～2日後であり、出穂期を事前に予測することは追肥等の作業計画を立てる上で有用である。普及に移す技術第83号で「シラネコムギ」、「ゆきちから」について、止葉と上位第2葉との葉耳間長（以降「葉耳間長」とする）による幼穂長の推定および出穂期の予測について参考資料としたが、新奨励品種「あおばの恋」についても、それらの目安が得られたので追補とする。

**2 参考資料**

- 1) 「あおばの恋」における減数分裂期（幼穂長30～50mm）の葉耳間長の目安は-30～+28mm程度である（表1，図1）。
- 2) 「あおばの恋」における葉耳間長±0mm頃から出穂期に達するまでに必要な日平均積算気温は110℃程度である（図2）。
- 3) 「あおばの恋」における葉耳間長±0mm頃から出穂期に達するまでの日数は平均気温11℃の場合9～10日程度である（表2）。

表1 幼穂長と葉耳間長(あおばの恋)

幼穂長	30mm		40mm		50mm
葉耳間長(mm)	-30mm	→ (2日程度)	+1mm	→ (2日程度)	+28mm
葉耳間長の形態的推移					

**3 利活用の留意点**

- 1) ほ場全体を対象として減数分裂期を判断する場合、全茎数の40～50%程度が葉耳間長±0mm以上に達した時期が適当である。
- 2) 本試験は主茎およびⅠ号，Ⅱ号分げつを対象としたが、Ⅱ号分げつが明らかに弱勢な場合は対象外とした。実際の判断にあたっては極端な弱勢の茎は使用しない。

(問い合わせ先：古川農業試験場水田利用部 電話0229-26-5106)

#### 4 背景となった主要な試験研究

##### 1) 研究課題名及び研究期間

主要農作物高位安定生産要因解析事業、麦類作況試験 平成18～19年

##### 2) 参考データ

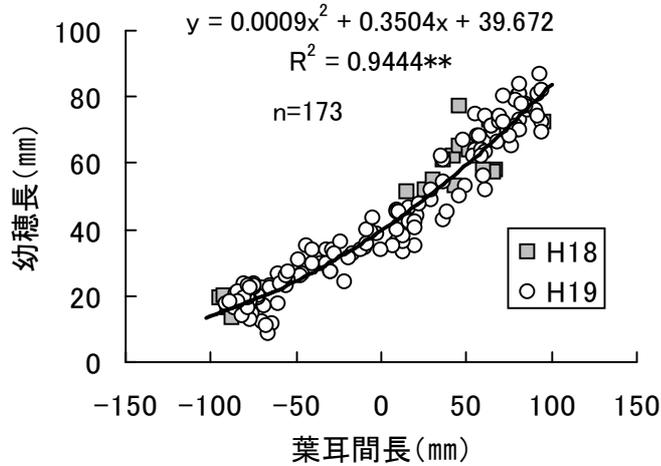


図1 葉耳間長と幼穂長(平成18、19年)

\*\*は1%水準で有意であることを示す。

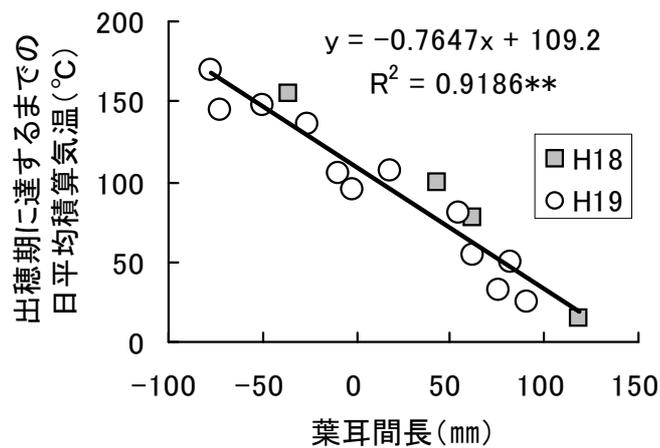


図2 葉耳間長と出穂期に達するまでの日平均積算気温(平成18、19年)

日平均積算気温は古川アメダス平均気温の積算値 \*\*は1%水準で有意であることを示す。

表2 葉耳間長±0mmから出穂期に達するまでの日数の目安

平均気温(°C)	出穂期までの日数
9	12～13日
10	10～11日
11	9～10日
12	9～10日
13	8～9日

##### 3) 発表論文等 なし